

公共施設の再編に関する意見交換会 概 要 報 告

日 時 令和元年10月26日(土)18時30分～20時10分
場 所 稲川生涯学習センター 視聴覚研修室
対 象 地 区 稲川地域(稲庭地区、三梨地区、川連地区、駒形地区)

参 加 者 24 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
稲庭地区	2	2	0	0			0			0			1	1		0			1	1		0		
三梨地区	10	10	0	0			0			0			1	1		7	7		2	2		0		
川連地区	4	4	0	0			0			0			0			2	2		1	1		1	1	
駒形地区	7	7	0	0			0			0			2	2		3	3		2	2		0		
そ の 他	1	1	0	1	1		0			0			0			0			0			0		
計	24	24	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	12	12	0	6	6	0	1	1	0

市 出 席 者 湯沢市公共施設アドバイザー、
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当、協働事業推進課長

概 要

開 会

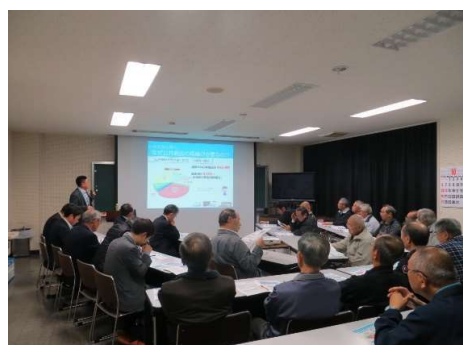
あいさつ

総務部長



説 明

- (企画課)
- ① 公共施設を取り巻く課題
 - ② エリア別の公共施設再編方針(案)の概要
 - ③ 集会所の地元譲渡にかかる支援策の概要



情 報 提 供

湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏



質疑応答、
意見交換



○公共施設の再編については、市では今までにないような丁寧な対話を重視していると感じた。稲川庁舎周辺エリアの再編では、学校の統合問題をどうしていくのか、私も子どもがいるので大変気になるところであり、防災上の観点からどのような計画を立てていくのかも気になるので、もう少し具体的なことが示されていれば良いと思った。現状を聞いただけが、学校統合問題を含めてもう少し議論していかなければいけないと感じた。

⇒(市)学校統合については、教育委員会が方針を示しながら地域、保護者、関係者の方々から御意見を頂戴する機会を重ねてきた。現時点の学校再編計画素案では稲川地域の4小学校を統合し、新たな統合小学校を川連小学校の校舎を利用して設置することとしている。学校統合が決定し、統合した後は、稲庭、三梨、駒形小学校が廃校舎となり、その校舎をどうするのかということが地域の課題になる。小学校は地域のシンボルであって、子どもたちや地域住民の精神的な大きなまとまりであるので、統合後も大切にすべきと感じている。また、自治組織についても、小学校区ごとに繋がっている。空き校舎については、地域として、他の用途として、どういう位置づけにしていけばいいかが今後の課題になると認識している。

○地元譲渡を想定する対象施設と、協議した際の意見を教えてほしい。

⇒(市)市が保有する建物で、地域住民の集会所として使われている建物を対象としている(施設名省略)。譲渡にあたっては、環境整備、財政支援のほか解体費についての不安の声があった。解体費については、これまで市が保有していた責任を持ち、一定の負担をするという支援策を準備したので、引き続き使っていただきたいと思う。

○譲渡された場合の税金はどうなるのか。

⇒(市)譲渡を受ける、所有権を移転する際には、登録免許税や不動産取得税が発生するが、そのような諸経費は市が全額負担することとした。固定資産税については地域が所有するため基本的には課税されることとなる。ただし、一定の手続きが必要ではあるが、公共的に集会所として使用していくので減免制度がある。

⇒(アドバイザー)全国的にも、地元で作った集会施設については固定資産税を全額免除しているところが多いと思う。今回、譲渡における支援の仕組みを市から提案したが、当初解体については市でもハードルが高かった。譲渡後まで負担すべきなのかということもあるが、市が所有していてもいずれかかる経費であるので、市も負担するという支援策となった。ぜひ受け入れていただけるとありがたい。これから協議が始まることとなり、各地域と話をするなかで色々な条件が出てくるかもしれないので、個別に相談していただければと思う。

○小学校が統合になった場合は、スクールバスとなるのか、公共交通を利用するのか。

⇒(市)稲川中学校は、公共交通あるいはコミュニティバスを利用していただいているが、小学校については、1年生の小さいお子さんから乗ることになるため、専用のスクールバスで送迎する方針である。

○児童クラブのいなかわっこ宮田教室は、現在委託先の福祉会が施設を新築しているが、児童クラブを統合し、施設を市で新築することについては説明済みなのか。

⇒(市)市の方針として、稲川地域の小学校の統合が決定した際には、児童クラブも統合することは、担当課より福祉会に説明済みである。市の施設に移転した後は、児童クラブで利用するスペースは他の用途として使用するとの話を伺っている。

○先日開催された女性議会についての新聞記事を見たところ、子を持つ母親の声として、子どもの遊び場が少ないので、他の市町村に行っているという意見に対して、市長が前向きな回答をしているように読めた。これから施設を集約しようとしているときに、市長は新しい施設を建てようというのか。

⇒(市)先日の女性議会では、子どもの遊び場が少ないため、他市、他県まで行って遊ばせているという意見があった。市には子どもの遊び場として、さまざまな施設や公園があり、例えば各地域には子育て支援センターがあるが、意見の趣旨はもっと気軽に使える屋内の施設が少ないとのことであった。それに対して市としては、親子揃ってあるいは子どもたちが安心して利用できるような、小さな子どもを育てるうえでの子育て支援機能の一つとして、そういう機能も充実させるべきではないかという趣旨で回答したものである。

○新聞からはそう受け取れなかったもので、誤解されないように回答してもらいたい。

⇒(アドバイザー)これは多くの自治体であることだが、職員が一生懸命削減、縮減のために努力しても、政治家としてはある程度のポリシーを発揮しなければならない場面もある。市民サービスの充実として、市民の皆さんが必要とする機能はなんとか備えていかなくてはいけないが、だからといって新しい施設をどんどん造る時代ではない。総量は増やせないなか、既存の施設でどうやって機能を発揮させていくのか、知恵を絞っていかなくてはいけない。それが行政の職員の大きな役割ではないかと思う。例えば中心市街地のエリアで、湯沢生涯学習センター、湯沢図書館、子育て支援総合センターを移転し、新しく造る際には、別々にやるのではなく集約してトータルは増やさないような考え方で機能が充実できれば、市長が答弁した内容と公共施設の再編の考えは矛盾しないのではないかと思う。全体で今ある床面積は増やさないことを前提に機能を付加していくことが必要な知恵の絞り方ではないか。

○学校統合については、子どもたちのクラブ活動ができなくなっており、前倒しで急いで統合してほしい。

○川連老人憩いの家の無償譲渡については、1年ほど前に部落委員、老人クラブ、婦人会、消防団、青年部、地域住民による「大館公会堂(川連老人憩いの家)を考える会」を立ち上げている。現在の施設は大きすぎるので、会としては半分位のコンパクトなサロン館を新築していただきたいと考えており、要望書を出す予定である。部落としても10%位の負担をしたい。

⇒(市)集会所譲渡の支援策を説明したが、改めてここからが地元の方々との議論のスタートだと思っている。長寿福祉課が担当となるが、集落でまとめていただいた意見と合わせて協議の場を継続して持っていただきたい。

○稲川地域の児童クラブを1つに集約することで、子どもたちが安全に、いろいろな層で集まり、勉強したり遊んだりできる場所となることができるが、1箇所ですべて賄えるのか。

⇒(市)稲川地域には児童クラブが2箇所あり、大館教室では川連小・駒形小の児童、宮田教室では稲庭小・三梨小の児童が利用している。いずれも登録人員は定員を上回っているが、利用人数を平均すれば定員程度である。当然ながら新しく整備する際には、国が示す基準を守って子どもたちの利便性、安全性を加味しながら整備することとなる。また、これからの児童クラブのあり方として、放課後、学校から子どもたちが移動せずに、放課後を安全に過ごすというのが一番良いではないかというのが市の考え方である。帰宅時は、保護者が学校に迎えに行くこととなり、そのエリアがあまりにも広ければ大変だと思うが、小学校区であれば十分可能ではないかと思っている。他の地域では、保護者が迎えに行く際、学校と保護者の距離が近くなるという意見があった。学校との連携が取れ、子どもたちが放課後安全に過ごせるのが最適であるため、小学校区に1つの児童クラブで、子どもたちを移動させない方向を目指していく。

○学校統合に関して、川連地区としては現在とあまり変わらないので意見はあまり出ないかもしれないが、他の地区はかなり体制が変わるので、後から問題が出てこないよう、一方的に説明するのではなく、PTA等との話し合いを十分にやっていただきたい。

○集会施設の譲渡について、譲渡の相手先は明確なのか。公共施設としての集会施設がある一方で、各部落にはそれぞれ小さな集会所を持っている場合があるが、三梨老人憩の家、駒形老人憩の家は、地区全体で受け入れるのか。

⇒(市)各老人憩の家については、それぞれの指定管理者と協議をすることとなる。三梨・駒形であれば、管理委員会、運営委員会が相手方となる。老人憩の家については時代と共に変わってきた経緯があり、建築した当時は地区センター的な役割で4地区に設置したのではないかと思う。その後、各集落でそれぞれ集会所を持ったり、利用実態が変わったりして、最寄りの集落の方々による利用がほとんどになったのではないか。今後の協議の際は、丁寧な説明をしていく。

○稲川庁舎、稲川カルチャーセンター、川連漆器伝統工芸館、産業支援センターについて、今後の運営や利用方法を検討していくということだが、検討に際しては直接の利用者は当然、地域の方々にも声をかけてもらったほうが、より幅広い意見が出てくると思う。10年以内でのんびり検討するのではなく、具体的に進めていくべきではないか。

⇒(アドバイザー)各施設の今後の利用のあり方を10年間も検討するのでは本末転倒である。今後2年位の間に一定のビジョンを示し、具体的にどういう事業を展開していくかということも含めて考えていかなくてはならない。利用率3割以下の施設が約80%との説明があったが、市としてこれだけの施設をどのように利用率を上げながら使っていくのかを2年間で整理し、腹案を作ったうえで地域の皆さんとお話し合いをさせていただければもっと知恵が出てくるのではないかと思うので、御協力をお願いしたい。

○稲川克雪管理センターは廃止か。耐震性は問題ないか。

⇒(市)耐震性に課題があるため、再編計画中間案では、除雪機械を格納する機能としては継続するが、地域のコミュニティ機能や農産物の加工所としての機能は、他の施設に移転することとしている。児童クラブについては、エリア別再編計画素案のとおりである。

○皆瀬川が近いので、川の氾濫が心配されるが、一時的な避難場所として稲川克雪管理センターを利用できるようにしたら良いのではないか。消防団員が減っており、克雪センターを拠点にすると5分以内に現場まで行けると思うので、考えてほしい。

⇒(アドバイザー)現在約200の消防施設があるが、消防団員が少なくなっているなか、消防団のあり方について今後どうするかということについては、行政がとやかく言うのではなく、消防団の皆さんで今後の将来を見据えて組織のあり方、配置のあり方をどうするかということ、1年位の間に検討いただきたい。その考えを受けて、詰め所などの見直しを進めていくと、克雪センターとの複合化という再配置の案も出てくるのではないかと思う。

○集会施設を譲渡された際の解体費用は市が全額負担するとのことだが、20年後、30年後もということか。

⇒(市)そのとおりである。修繕をせず、そのままの姿で譲渡をした際の解体費用は全額補助とする。

○集落の人が段々少なくなって限界集落になった際に、集会所の維持管理費用を捻出できないようなことがあれば解体となると思うが、会議の場所は必要である。そうなった時に、階段があるようなバスではなく、乗りやすいバスでこまめに回ってもらう仕組みがあれば、別の場所でも集まることができると思う。お年寄りが買い物に行くときに、手軽に利用できる交通手段があれば、住みやすくなるのではないかな。

⇒(市)公共施設の再編に伴って距離が遠くなってしまう時に、高齢者を中心に交通手段をどう確保するのが大きな課題である。例えば地元の集会所に集まる際の高齢者の支援を、市で行うのは困難なので、地域の共助のなかで仕組みづくりをしていただきたい。公共交通については、定期バスのほか乗合タクシーなど様々な交通手段があるが、それで十分なのかは市としても大きな課題であると認識しているため、地域が主体となった公共交通なども検討が必要な状況である。

○地域のことは地域でというのは理解できるが、どこの集落でも同じような問題があるので、市で行う方法も考えてほしい。交通手段さえあれば、たとえ離れていても集会所1つで済む場合もあるのではないかな。また、子どもに付き添いが必要な様に、老人にも付き添いがあれば、安心してどこにでも行けると思う。

⇒(市)移動手段については、公共交通と地域内のコミュニティで運営するものがある。他の市町村でも、コミュニティバスを地域のなかで運営しているところがある。集落の範囲を越えてもっと広い範囲で、隣の集落と一緒にやってという見方も必要と思う。集落が限界を迎えてコミュニティ自体が成り立たないという状況になれば、もう少し広い範囲のコミュニティを形成しなければならないと考える。隣集落と共同でコミュニティバスのようなものを運営できるか、今後検討していきたい。

⇒(アドバイザー)現在、市が抱えている一番大きな課題が、これからの地域づくり、地域経営をどうしていくかである。それは、この公共施設の再編でも避けて通れない課題であるので、2から3年位かけてしっかり仕組みづくりを行い、地域と協働で色々な課題の解決にあたっていけるよう描いていきたい。

○行政的には目的と手段の説明をする訳だが、当事者である地域住民は縦割리になっていない。自分たちは全てのことを考えてここに来ている。私たちは一番大きな課題は人口減少対策と認識している。人口増の取組としては、国際交流や新たに高校を作る方法がある。稲川地域全体で考えたときに学校を含めた複合施設にしなければいけないというのがはっきり分かっている。そのために何から始めるか、地域住民は次の段階を期待している。

⇒(アドバイザー)人口対策をどうしていくのか、魅力ある地域づくりのために公共施設をどう使いこなしていくのかというのが大きな課題だと認識している。これまで行政は縦割りで公共施設を整備してきたが、改修をするにしても数年の間でそれぞれ個別の施設ごとに直してしまうことが往々にしてある。面的に俯瞰していれば、一緒になって整備することで重複なくていい場合もある。そういった意味で、今回は面的に見たエリア再編という手法を取っている。今回稲川地域であれば数少ない施設に留まっているが、学校の再編を契機に第2弾のエリア再編として色々な施設の複合化を図る案が検討される場合もある。